



ごあいさつ

キーワードは環境 社会・お客様に役立つ製品の早期具体化を

常務取締役 原 拓 司

一昨年秋以降の世界同時不況の大きな影響を受け、2009年の日本経済はきわめて厳しい状況が続きました。この大不況は底を打ったとの声も聞こえますが、回復過程にあるのは一部の業種に限られ、総じて最悪期は脱するものの日本経済は輸出や設備投資の不振、雇用・所得の低迷による個人消費の一段の冷え込みなどにより、景気の二番底、更にはデフレスパイラルが憂慮されるなど、まだまだ出口が見えないというのが実情ではないかと考えています。

このような厳しい状況の中で当社グループにおいては、中国事業の堅調、受変電機器の2008年度受注分の売上計上、半導体製造装置、自動車関連部品事業の回復傾向により、2009年度業績は何とか確保できる見通しです。しかしながら主力の受変電機器において、お客様の投資計画の凍結、延期が相次ぎ、受注高は計画対比大幅減という状況が続いており、2010年度の操業面、業績面への影響が避けられない状況になっています。こうした中当社では、2010、2011年度をどう乗り切るか、2015年度にどのような会社を目指すのかなどを見極めるべく、2009年末に「ビジョン2015策定委員会」を発足しました。損益分岐点の引き下げに加え、どのようにしてお客様に選ばれ続ける会社にしていくか、新たにどんなビジネスを拡大していくかなど鋭意検討を進めています。

昨今の厳しい状況下においては、社会に貢献しお客様に喜ばれる新製品・新技術の開発スピードを加速し、早期に市場に投入していくことが有効な対応策のひとつです。今世界でスマートグリッドが話題になっていますが、これは電源が多様化する中で、電力の高品質かつ安定供給を確保しつつ、CO₂削減を実現する手段とも言えると思います。当社は過去から無効電力補償用コンデンサ、電圧変動補償装置など電力の効率的利用、品質向上関連製品を数多く手がけてまいりました。これらに加え、1990年代から手がけてきた太陽光発電システム、最近市場投入した電気自動車用充電スタンドなども、スマートグリッド実現に貢献する製品群です。その一方で当社は、製品のライフサイクルでの環境負荷低減を目指し、独自技術を駆使して製品のコンパクト化を推し進め、環境に優しい多くの製品を世に送り出し、お客様からご好評をいただいております。電力以外の分野でも地下水の特定イオン除去システム、排水処理システムなど、広義の環境製品にも力を入れてまいりました。今後とも当社がこれまで培ってきた技術に磨きをかけ、環境関連製品の開発をスピードアップするとともに、あらゆる製品を環境負荷低減の観点から進化させ、日本はもとより発展途上国の環境問題の解決にも貢献していきたいと考えています。

先行き不透明な経済情勢の中、スマートグリッドにしても環境事業にしてもまだムード先行の感がありますし、環境負荷低減の側面のみならず、使い勝手、メンテナンス性なども含め、本当にお客様に喜んでいただける製品の姿を具体化していくことが極めて重要な時期に来ていると思います。社会に貢献し、お客様のお役に立てる製品をいち早くお届けしてまいりまいる所存でございますので、引き続きお客様のご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。